

早わかり「躁鬱病」

「鬱」は、とても複雑な漢字（画数は29画）ですが、平成22年から常用漢字になりました。「鬱」は、サフランなどで匂いを付けた酒（鬱）から香りが立ち（鬱）こもっている状態を表す漢字が元になっています。「躁」は、木の上で鳥の群れがガヤガヤと騒いでいる様子を表しています。

そううつ病（そうきょくせいしょうがい双極性障害）は、100人に1人もの人が発症する頻度の高い病気で、そう・うつの繰り返しのために人生を狂わせることもある重大な疾患です。

そううつ病も、うつ状態しか発症しないうつ病（だい大うつ病といいます）も、どちらも気分障害という精神疾患のひとつですが、次のような違いがあります。

	大うつ病	そううつ病
症状	うつ状態のみ	そう状態・うつ状態
経過	半数は1回のみ	再発を繰り返す
発症年齢	2つのピーク (30歳, 50歳)	平均約30歳
発症率	15% (女>男)	約1% (男≒女)
治療薬	抗うつ薬	気分安定薬
治療期間	6ヶ月～1年	生涯にわたる予防
原因	ストレス・養育など	遺伝的体質

あるそううつ病患者（35歳女性）の症例より...

第一子の出産後、うつ状態になったが、数ヶ月で自然に回復。

第二子出産後に仕事に復帰したが、人間関係に悩んで仕事に行けなくなり、精神科を受診。

うつ病の診断で抗うつ薬を処方されたところ、そう状態となり、上司とケンカになり、仕事を辞めて転職。

診断の誤り **治療の遅れ**

転職後にまた気分が落ち込み、再び精神科を受診し、抗うつ薬を処方された。

服用数日後からそう状態となり、医療保護入院となった。

リチウムと非定型抗精神病薬の併用で急速に落ち着き退院となったが、頭の回転が悪くなった感じがして治療を中断した。

薬の副作用

3年後、再発し、リチウムを服用したが服用中にそう状態になったため、バルプロ酸に変更。

治療反応の予測の難しさ

2年ほどバルプロ酸を服用していたが、職場の同僚から「いつまで薬に頼っているのか」といわれ、やめてしまった。

偏見

その後、約10年の間入退院を繰り返した。次第に病気を受け入れるようになり、服薬を続けるようになり、再発はおさまった。

そう状態

高揚した気分

発想があふれて集中できない

自信满满

止めどなくしゃべり続ける

食事もせず活動し続ける

何百万円もむだ遣い

一晩中寝なくても平気で活動



未解決の問題点

いくつかの治療薬がありますが、副作用が強く、効果も不十分。

発症には遺伝的な体質が関わっていますが、単純な遺伝病とは異なり、多くの遺伝子の影響があって根本的な原因はいまだに不明。

うつ状態

気分が落ち込む

何も興味がない

生きる価値を失う

頭が回転しない

食欲がなくて体重が減った

何をやる気にもなれない

眠れない

死にたい



国立研究開発法人 理化学研究所
脳神経科学研究センター
精神疾患動態研究チーム

<http://www.brain.riken.jp/labs/mdmd/>